

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

和歌山立岡崎小学校
教諭 加藤 久佳

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

これらの研修を通して、次期学習指導要領改訂をふまえた幅広い知識が増えるとともに、これまでの教育実践や経験を、理論的に意味付けて考えることができた。

修養に関しては、授業力・学校組織開発力・校内研修運営力の向上トレーニングを通して、所属校におけるミドルリーダーとしての自分の役割について考え、新たな示唆を得ることができた。また、学びの丘の指導主事による研修員研修や専門性の向上を目指す研修講座を数多く受講したことで、これまでの学級経営や授業づくりの基本となる考え方について見つめ直す機会となり、教師力向上を目指し、年間を通して意欲的に取り組むことができた。そして何より、教師も学び続けることが大切であることを実感した。

研究に関しては、これまでの道徳教育に係る実践を振り返りながら、様々な文献や先行研究を読み進めるとともに、外部講師や指導主事から随時指導助言を得たため、道徳教育に関する知見を深めることができた。研究の方向性を固めていくことの難しさも感じ、悩み続けた一年間だった。しかし、粘り強く研究を進めていく中で、学校全体で取り組む道徳教育と道徳の時間の重要性を再確認し、今後の所属校における研究の方向性を見つけることができた。

今年度身に付けた学びに向かい探究し続ける姿勢は、今後の教師人生にとって、かけがえのないものとなった。このような機会を得たことに感謝しつつ、より一層の研鑽を重ね、教師としての資質能力の向上に努めていきたい。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成
所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」					
修養	<ul style="list-style-type: none"> ■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修、10年経験者研修等聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修 				

図 研修の概要